

男女が共に個性や能力を発揮できる社会の実現をめざして

授業実践事例集

男女共同参画・ジェンダーの視点を広めよう！



静教組男女共同参画推進委員会

2016 年 4 月

静教組は、男女が共に個性や能力を発揮できる社会の実現をめざして、第4次男女共同参画推進行動計画（2015年度～2017年度）を策定し、「組織づくり」「学びづくり」「職場づくり」の領域に分け、それをもとにした具体的なとりくみをすすめています。

中でも、「学びづくり」では、教育の果たす役割を十分に認識し、教職員が授業実践を通して、子どもたちに男女共同参画・ジェンダーの視点を広めるとりくみが重要と考えています。

2015年度男女共同参画推進委員会委では、各支部における授業実践を共有化し、その実践を広めるために「授業実践事例集」を作成しました。この事例集を組合員に活用していただき、男女共同参画の推進につなげていけたらと考えます。

目次

○ 仕事・役割分担	1
○ 職業・進路選択	13
○ 色	19
○ 協力	27

田方 小学校（生活・学活・道徳）

- 1、主題名 自分らしく生きる
 2、ねらい 自分の家庭生活の中で、誰がどのような仕事を行っているか考えることによって、そのような仕事は、その人の特性によって分担することの大切さに気付き、自分のできることは進んでやっ
 て行こうという意識を高める。

3、本時の展開 ○発問、指示 ・児童のあらわれ 【支】支援 【留】留意点

過程	教師の働きかけと予想される子どもの活動	形態
気 付 く	○家の中の仕事は、だれがやっているのか考えよう。 【留】 ワークシートを配り、家の仕事とだれがやっているかを記入させる。また、気付いたこと も書かせ、家族のだれがどのような仕事をしているのか、意識させる。	個
	○だれがどのような仕事をしているのか、発表しよう。 ・あさごはんは、必ずお母さんが作っているよ。・せんたくもお母さんだ。 ・ゴミ捨ては、お父さんが行くことが多いな。 ・犬の散歩は、お父さんかな。・何か壊れたら直すのも、お父さんかな。 【留】 分類が意識できるような、板書をする。	一 斉
深 め る	○自分や友だちの仕事調べの結果を聞いて、気付いたことを発表しよう。 ・家の中には、たくさん仕事があるんだな。・どこの家にも、同じ仕事があるよ。 ・朝ごはんは、お母さんやおばあちゃんが作っているね。・女の人の仕事なのかな。 ・うちは、お父さんだよ。・お母さんばかりが、お家の仕事をして大変だから手伝いたいな。 【留】 仕事によって男女の偏りがある場合には、なぜその仕事はその人の仕事なのか考えさせたい。 下記発問①へ。男女共に、いろいろなことを分担しやっている家庭が多い場合には、 下記発問②へ	一 斉
見 つ め る	① ○なぜ、男の人ばかりがやる仕事と女の人ばかりがやる仕事があるのか、考えよう。 ・ご飯作りは、お母さんが上手だからだと思う。 ・ゴミ出しは、力がいるからお父さんの仕事だと思う。 ・うちは、お母さんの方が力持ちだから、ごみ出しはお母さんでもいいと思うな。 【留】 性差からくる仕事の違いではないということをおさえない。	一 斉
つ な げ る	② ○それぞれの仕事は、なぜその人が行っているのか考えよう。 ・料理は、お母さんが上手だからお母さんの仕事なんだろうと思う。 ・うちは、お父さんの方が料理が得意だよ。だから、日曜日はお父さんが作るよ。 ・うちのお父さんは、お母さんより掃除が得意。だから、お父さんがお掃除をするよ。 ○振り返り ○今日、みんなと話したことを振り返って、思ったことや感じたことを書こう。 【留】 書くことが難しい場合には、聞き取りを行う。 ・家には、たくさん仕事があるんだな。・今度、手伝ってみよう。 ・その仕事が、上手な人がやるといいんだな。 ・私は、朝ごはんの手伝いをしてみたいな。	個 一 斉

※家庭状況に配慮していただければと思います。児童の実態によっては、中学年用の「ますだくんのランドセル」をご活用ください。

※1年生は、場合によって、仕事調べは、事前の宿題になってしまうかもしれません。よろしくお願いいたします。

かぞくのしごとしらべカード

1ねん〔 〕くみ なまえ〔 〕

いえのなかのしごとは、だれが、どんなしごとをしているのかな??

いえのしごと	だれが

きづいたことをかきましょう

田方 小中学校（学活・道徳）

「モモタロー・ノー・リターン」指導案 実践例

- 1 主題名 異性を理解し尊重して
- 2 ねらい 男女がそれぞれ、相手の人格を尊重するとともに、互いに敬愛をもって協力し、向上し合っていこうとする心情を育てる。

3 本時の展開 ○発問、指示 ・生徒の表れ 【留】留意点

過程	教師の働きかけと予想される生徒の表れ	形態
気付く	○日常生活の中で主な家事の分担はどうなっていますか。 ・食事作り→（家族の中で）男 ○人 女 ○人 ・皿洗い→ 男 ○人 女 ○人 ・洗濯→ 男 ○人 女 ○人 ・掃除→ 男 ○人 女 ○人 ・ゴミ出し→男 ○人 女 ○人 【留】普段、どのように家事の分担がされているか見直す。 【留】父、母、自分といった分け方ではなく、男女に分けて考えてみる。（事前にアンケートなどで聞いておいてもよい）	一斉
深める	○「モモタロー・ノー・リターン」を読み、印象に残ったところや、疑問に思ったところに線を引きましょう。 ○「モモタロー・ノー・リターン」を読んで、感じたことや思ったことを話し合ひましょう。 ・不思議な感じがする。 ・何か、変。 ・常識ってなんだろう？ 【留】思いを自由に語らせ、これまで無意識のうちにに行っていた労働分担や、偏った考え方に気付かせたい。	個別 一斉
見つける	○なぜ、桃子は鬼ヶ島の城に攻め込まずに、何日も門の前に待機していたのでしょうか。 ・暴力で解決したら、鬼たちと変わらない。 ・鬼たちに不便さを感じさせ、困らせたい。 ・鬼たちの考え方を変えたい。 ○桃子は、鬼たちにどのような構想（ビジョン）を示したのでしょうか。グループで話し合って みましょう。（P 18） 【留】資料提示の際、構想部分を空欄にしておき、様々な視点から考えさせたい。 【留】グループにこだわらないが、話し合いをもつことによって、住みやすい社会、生きやすい社会とはどういうものかを深く考えさせたい。	一斉 個別または小集団
つなげる	○教師の説話 （互いの人格を尊重し、協力してよりよい生活をする事の大切さを話す） ○振り返り（感想等）	一斉 個別

富士 小学校（学活・道徳）

1 はじめに

男子15名、女子15名の5年生の学級である。

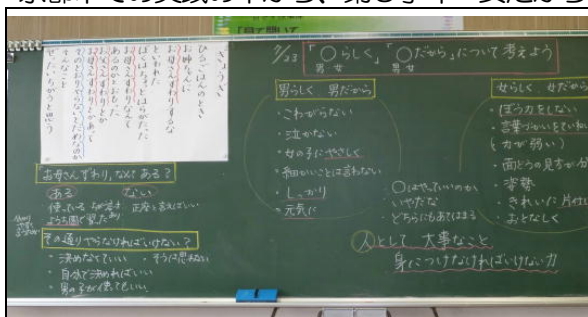
子供たちは普段の生活の中で、まわりにいるいろいろな人から「男なんだからしっかりしなさい」「女の子らしくしなさい」と言われている現状があると思われる。学級の中でも「男のくせに…」「女なんだから…」など、友達同士の間でそのような言葉がよく聞かれる。

しかし、例えば「男の子だからしっかりする」「女の子だから優しさをもつ」というのはよく言われるが、「自立心」や「優しさ」は性別にかかわらず、一人の人間として生きていく上で大切な能力である。

今回、「男らしさ」「女らしさ」についてみんなで考えることによって、男の子も女の子もそのように言われたことがあると知ったり、言われている内容から「人として大切なこと」に目を向けたりすることができたらと思い、この授業実践を行うことにした。

2 授業実践

京都市での実践の中から、第5学年「女だから、男だから？」を本学級で取り組んでみた。



題材名

「男らしく」「女らしく」について
男・女 男・女 考えよう

○ジェンダーフリーの視点から、
子供たちが普段、生活の中で感じて
いる「男らしさ」「女らしさ」につ
いて考える。

学 習 の 流 れ

- 1 「男の子だからそんなことはしてはいけない」「そんなことをするのは女の子らしくない」と言われたことがありますか。

「男らしく」「女らしく」について考えよう

※○には男の子、女の子が入る。

- 2 詩「ぎょうぎ」を読んで考えよう。

- ・お母さんずわりという言い方は有りかな。
- ・その通りにしなければだめなのかな。

- 3 今までの自分の生活で、「男(女)の子だからそんなことをしてはいけない」「そんなことをするのは男(女)らしくない」などと言われたことがあるか、ワークシートに書いてみよう。

- ・「誰に」「どんなことを」「どう思ったか」について書く。

- 4 経験したことについて話し合おう。

- ・どう思った？ ※出された意見を比べて考える。
- ・どこがおかしい？

- 5 学習を振り返って思ったことを書こう。

ぎょうぎ
ひるごはんのとき
お姉ちゃんに
お母さんずわりするな
といわれた
ぼくはちよつとはらがたつた
お母さんずわりなんて
あるのかとおもった
お父さんずわりとか
お母さんずわりとかあつて
そのとおりにはやらないとだめなの
か
そんなこと
ぜったいちがうと思った

<授業の様子から>

○「ぎょうぎ」の詩から考える。

お母さんずわりはあるのかな。		その通りにしなければダメなのかな。	
「ある」	「ない」	・そうは思わない。 ・決めなくていい。自由だと思う。 ・自分で決めればいい。 ・男の子だって、してもいい。	
・使っている	・ほかの言い方をすればいい		
・幼稚園でそう習った	・正座と言えればいい		
・分かりやすい			

○今までの自分の生活で経験したことを話し合う。

男らしく、男だから	女らしく、女だから
・こわがらない、強く ・泣かない ・女の子に優しく ・細かいことを言わない ・しっかり ・元気に	・暴力をしない ・言葉遣いをきれいに、ていねいに ・小さい子の面倒を見る ・姿勢を正しく、足を閉じて座る ・きれいに片付け ・おとなしく、落ち着いて

- ↓
- ・男(女) だったら、やっていいのか。
 - ・男(女) だからと言われるのは、いやだな。
 - ・男だから、女だからというのはないと思う。
 - ・男だから、女だからではなく、大切なこと。どちらにも当てはまる。

人として大切なこと 身に付けなければいけない力

○学習を振り返る。(子供たちの振り返りから)

- ・「女の子はたいたり蹴ったりしてはいけない」って言われるけれど、男の子はしていいの かなと思う。
「男の子はしっかりしなさい」って言われるみたいだけど、女の子だってしっかりしなければいけないって思う。女の子だから「おとなしく」、男の子だから「こわがらない」っていうのは確かにやらなければいけないこととは思いますが、女の子の「女らしく・女だから」や男の子「男らしく・男だから」の内容は、男の子も女の子も関係なく、大切なことなんだと思う。
- ・いくら女の子、男の子だからといっても「やらなくていい」「やらなきゃだめ」ということ はないと思う。だめなものは女の子、男の子、関係なくだめだと思うから。でも女の子には できて男の子にはできないものがあって、男の子にはできて女の子にはできないものがあっ て別々だと思うから、それは女の子、男の子のちがいがあっていいと思う。人らしく、自分 らしく生きていければいいと思う。
- ・「女の子だからだめ」とか「男の子だからだめ」ではなくて、どちらもやってはいけないこ とがあるから、男だから女だからとか関係ないと思う。女の子だから暴力をしてはいけない と言ったら、男の子は暴力をしてもいいみたいになるから、人として、男の子も女の子も「や らなければいけないこと」「や かってはいけないこと」は同じ。男の子に言うことで女の子に も必要あることもあるから、「男(女)だか ら」は関係ないと思う。人として大切なことを身 に付けていく。

3 終わりに

授業を通して、多くの子供たちは普段から家族に「男(女)だから」「男(女)らしく」と言われていて、「なぜ男(女)の子だからこうしなきゃいけないんだ?」と感じていたことが分かった。また逆に、今までそのように言われた経験がないという子もいた。意識してはいなかったが自分でも相手(男女)に対して言っていると気付いた子もいた。言われている内容を出し合う中で、男女どちらで言われていることも大切なことで、男女関係なく「人として」大切なこと、身に付けなければいけないことがあると気付くことができた。家族は大切なことを言ってくれていたんだと捉えた子も多かった。ただ、「父母や祖父母は自分が小さい頃に言われていたことを自分たちにも言っている」「昔の考え方を押しつけているような気がする」「親だって子供の時にそう言われて嫌だったはずなのに…」と「男(女)だから・男(女)らしく」という言い方には納得していない様子が見られた。ただ単に「男(女)だから～・男(女)らしく～」ではなく、「人だから～・人らしく～」というように捉え方を変えていかなければいけないと感じた。

静清 小学校（学活）

目標

日常生活の劇を見て、自分たちの生活を見つめ直すことを通して、男女の固定化されたイメージで判断していることに気づき、性別ではなく個人としてよりよい人間関係を築いていこうとすることができる。

学習活動	留意点
○今日は、性別（男の子と女の子）についてみんなで考えよう。 この劇を見て考えよう。 劇その１「男だから」「女だから」 ・男の子なのに手芸クラブって珍しいね。 ・「男子なんかに負けない」って私もよく使っている。 ・やっぱり男子がサッカーで女子が手芸の方が向いている。 ・最近女子サッカーも有名になったよ。 劇その２「昔は男女で学習内容がちがっていた」 ・男の先生が手芸クラブって変わっているね。 ・昔は、勉強内容が男子と女子で違うなんてびっくり。 ・昔は、性別でやる仕事が決まっていたんだね。 ・今は、男子も家庭科を普通にやるし、僕は家でも料理するよ。 劇その３「家では」 ・お母さんは仕事をしていないから、家の仕事はお母さんが多いかな。 ・家はお母さんばかり大変そう。 ・お父さんの作ったご飯の方がおいしい。 ・掃除も洗濯も得意な人がやればいいのに。 男がすること、女がすることって決まっているのかな。 ・ご飯はお母さんが作る人が多いけど、お父さんだって作れるよ。 ・体育委員は男子が多くて、保健委員は女子が多いけど、そうやって決まっているわけじゃない。 ・ドッジボールが強いのは、男の子も女の子もいる。 ・今まで、気付かないうちに男子と女子を分けて考えていたけど、好きなものは男とか女で決まるんじゃなくて、人によって違う。 ・男とか女とか気にせず自分のやりたいことをして、みんなが仲良くしている方が楽しい。 ・男でも女でも、自分の得意なことをした方が、クラスはまとまる。 ・性別で役割を決めつけることはおかしいね。 ・クラスでも家でも、みんなが意見を出し合って決めていくのがいいね。 ○話し合いをふりかえって感想を書こう。	・劇、もしくはペープサートを使って、台本を演じる。劇は教員でも子どもでもよい。 ・前半部分の授業の流れ 劇その１を見せて子どもたちの考えを聞く。 ↓ 劇その２を見せて子どもたちの考えを聞く。 ↓ 劇その３を見せて子どもたちの考えを聞く。 ・男女の固定化されたイメージで様々なことを決めつけてよいのかを考える。 ・家庭の役割分担だけではなく学校生活における友達との関わりについて考えることも大切にする。 ・ふりかえり用紙を使い、授業の感想を記入する。

劇台本

その1「男だから」「女だから」

手芸クラブに入っている、男の子〇〇さんと、女の子〇〇さんが、お話をしています。手芸クラブでは、マフラーやぬいぐるみを編んだり、袋やマスコットを縫ったりしています。二人の会話を聞いてみましょう。

女の子：ねえねえ、〇〇って手先が器用だね。

男の子：まあね。こうやって何か作るのが好きなんだ。

女の子：あんた、男子のくせに編み物もできるんでしょ？私なんてマフラー編んだけどぐちゃぐちゃだった。

男の子：いいじゃん、編み物できなくても。〇〇はサッカーが得意じゃん。こないだの試合、女子なのにゴールしたんでしょ。

女の子：まあね！男子なんかには負けられないし。

男の子：〇〇は、頭もいいし、運動もすごいし、いいなあ。

女の子：力で男に負けたくないし。

その2「昔は男女で学習内容がちがっていた」

2人は、手芸クラブで一生懸命作品を作っています。でも、手芸クラブ担当の先生がなかなかいらっしやいません。

女の子：もうすぐ、完成するのに、先生なかなか来ないね。

教 員：(登場) おーい。そろそろ終わりにしよう。

女の子：先生、ちょうどできました。はい！

教 員：おー！いいじゃないか。でも、見てやれなくて悪いなあ。

女の子：いいですよ。先生、そういえば、うちのお母さんが「なんで手芸クラブなのに男の先生？」って言ってたよ。「女じゃなきゃだめって決まっていなかったけど、男の先生が担当するくらいだから、〇〇先生って相当器用なんだろうね。」って。そうなの？

教 員：いやあ、そういうわけじゃないよ。僕が器用だからってわけじゃなくて、先生方みんなで決めたんだよ。

男の子：どうやって決めたの??

教 員：自然にこうなったんだよ。確かに昔の中学生は、女の子だけが家庭科をやってたよ。女の子は仕事をしないで、家で主婦をやる時代だったから、料理とか裁縫を勉強していたんだ。男の子は木を切って箱を作ったり、電気のしくみについて勉強したりしていたんだよ。

男の子：へえ、そうなんだ。

その3「家では」

男の子：僕、小さい頃からおじいちゃんに「男のくせに泣くな」「男のくせに女みたいな遊びするんじゃない」ってものすごく怒られたよ。おじいちゃんは、古い授業を受けたってことだね。

教 員：そうだねえ。男はこうあるべき、女はこうあるべきってことはないんだ。

男の子：家のお父さんは、いつもお母さんに「ご飯はまだか」とか「掃除しろ」って言っているよ。お母さんは、仕事から帰って来て、洗濯物片付けて、夕飯の支度しているのに、お父さんはテレビ見ながらビール飲んでるし。夕飯の後、僕の宿題見てくれるのもお母さんだ。お母さんは、「お父さんだってやってくれればいいのに。」って言うてる。

女の子：うちではお母さんの仕事が忙しいから、お父さんが洗濯と夕飯のしたくをしているよ。

男の子：そうなんだ、うちとは違うんだ。

1 簡単な授業の流れ(授業の実践でなくてもよい)

《家庭科》

「家庭の仕事を見直すことで、性別に関係なく、自分ができる仕事は自分でやったり、家族のために手伝ったりする児童を目指す」

家庭での仕事を出し合う。

↓

仕事の多さに気付く。

↓

やっている人は誰か、考える。

↓

家の人が多くやっていることに気付く。(性別は問わない)

↓

自分ができることを見付ける。

↓

これからの活動の意欲付けとして、1年間の見通しを持つ。

①朝食作り、②洗濯、③ミシン、裁縫、④献立作り、など。

↓

活動につなげる。

《その他》

- ・全校での「さんづけ」活動。11月に達成率を調べる調査も行い、「さんづけ」で呼ぶことを広めている。
- ・道徳の題材で、男女仲良く活動するものを扱った。

2 考察や感想

児童感想

〈洗濯〉

・汚れがこすっても取れなくて苦労した。だけどよごれがだんだん黒から白になった。洗った後のおけの水が、薄い茶色になって、汚れが取れていると思った。いつもは洗濯機だから、干すときに手伝いたいです。

〈朝ご飯作り〉

・スクランブルエッグを作っているときに、火は弱火でやることが分かった。同じスクランブルエッグを作っても、友だちと材料や用意する道具が違っていた。・この調理実習で作って、朝ご飯が作れるようになりました。一人で作ったのは、初めてだったので、火での料理の仕方、気をつけることが分かりました。

3 授業後の保護者への広め方や反応など

- ・地域公開日で家庭科のミシン活動を公開し、性別に関係なく活動する姿を広めた。
- ・そうじについて調べ学習を行い、自分の家でも実践するようにした。
- ・家庭科での活動は、廊下に写真やワークシートを掲示し、活動を紹介した。

磐周 小学校（学活）

1 活動名 それってへんだよ

2 男女の自立と共生にかかわるねらい

「男の子」「女の子」の性別にこだわらず、自分の思いを大切にすることや互いを大切にしようとする気持ちをもつことができるようにする。

3 準備物 「それってへんだよ、男の子(女の子)」「どっちでもいいんじゃない？」の資料
ワークシート

4 学習過程

学習活動	留意点
1 資料「それってへんだよ、男の子」を見て話し合う。 ○ 学級会で話し合いをしています。みなさんの考えをいってみましょう。 ・男の子と女の子が混ざって遊べばいい。 ・自分の好きな遊びを選ぶ。 ・男の子ばかり運動場を使うのはよくない。 ・曜日によって分ける。 ・男の子が遊ぶところと女の子が遊ぶところを分ける。 ○ どんな考え方がいいのでしょうか。 ・男の子と女の子で分けるのはおかしい。 ・自分の好きな遊びを選ぶ。 2 資料「それってへんだよ、女の子」を見て話し合う。 ○最後に男の子が「へんだと思わない？」と話しかけています。あなたはどう思いますか。 ・へんだと思う。女の子も気を付けてやればいい。 ・男の子の仕事って決まっていない。 3 生活を振り返り、本時のまとめをする。 ・男の子も女の子も、遊びは自分で決める。場所は譲り合って仲良く遊ぶ。仕事でも男女関係がない。助け合って仕事をする。	・資料を印刷しておき、全員が読むことができるようにする。 ・いろいろな考え方を出させ、考え方には違いがあることに気付かせる。 ・あくまで男女別に考えている児童に対しては、本当にそれでいいのかを考えさせる。 ・男女の違いによって分けるべきものでないことを感じ取らせる。 ・資料「どっちでもいいんじゃない？」を見て、共感できるようにする。 ・資料の女の子の考え方に偏りがあることに気付かせ、男女の違いによって仕事を分けるべきではないことを感じ取らせる。 ・生活を振り返って、同じようなことがないかを考えさせる。 ・今日の授業で感じたことをワークシートに書くようにさせる。子どもの文章を学級だよりに掲載して家庭に配付し、啓発を図る。

<中学校 家庭における男女の協力を考えよう！>

公民の資料参照

課題

①先生の友だちの話を聞いてください。

「Aさんは30歳、商社で働いています。今の仕事にやりがいを感じていて、出張や会議も多いです。夫のBさんも銀行員として活躍していて出世街道をすすんでいます。できるかぎり家事も分担してやっています。このおうちでは、Aさんのお母さんも同居しています。

そんな家庭の状況で、Aさんが妊娠したことを2人にうちあけました。」

②家族はどんな反応をしたとおもいますか？どうしてそう思いますか？

③続きを話す。

「実は、Aさんは仕事を続けたいと思っています。Bさんは喜んではいませんが、仕事と育児の両立は厳しいのではと心配しています。

お母さんは、育児は女性の仕事です。無理して今の仕事を続けなくてもと言っています。

自分がAさん、Bさんの立場だったらどう伝えますか？お母さんの立場では？
グループでこの話し合いの続きをロールプレイで行ってみよう。

④役割分担を決めて、ロールプレイを行う。

※あくまでBさんは、心配をしている派、お母さんは仕事反対派で話しをすること。

⑤自分だったらどう考える？

※自分の経験から、母親がそばにいない寂しさを伝える生徒もいるため、どちらが良い悪いの話し合いにならないように気をつける。



何が問題になっているのかな？また、その改善方法はあるのかな？

⑥資料を見て、今の日本の男女共同参画社会の状況を考える。

⑦あなたが考える家庭における男女の役割分担についてワークシートに書く。

家庭における男女の役割

① 家事・育児にかかる時間

男性		女性	
家事29分	日本 (2011年)	育児3時間15分	家事4時間16分
育児37分			
2時間8分	アメリカ (2006)	2時間18分	3時間52分
1時間46分	イギリス (2000~01)	2時間22分	3時間47分
1時間50分	フランス (1998~99)	1時間57分	3時間52分
2時間1分	ドイツ (2001~02)	2時間18分	3時間53分
2時間14分	スウェーデン (2000~01)	2時間10分	3時間19分

注：調査対象は6歳未満の子どもがいる男女（「厚生労働白書」など）

② 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という意見に賛成ですか、反対ですか？

(2005年)		賛成 どちらかといえば賛成 反対			
日本	男性	15.8%	46.8	22.8	15.1
	女性	9.4	43.0	22.6	25.0
韓国	男性	25.7	37.7	19.2	15.2
	女性	17.3	34.0	22.9	23.5
タイ	男性	43.4	16.0	15.8	24.8
	女性	47.5	11.1	14.9	26.5
アメリカ	男性	20.3	34.5	23.2	18.2
	女性	25.3	33.5	17.8	19.3
フランス	男性	10.1	26.2	25.5	31.3
	女性	7.7	19.3	29.0	38.5
スウェーデン	男性	2.1	59.6	83.7	3.0
	女性	6.0	55.5	84.7	3.0

注：調査対象は12歳までの子どもがいる男女（国立女性教育会館資料）

男女がともに活躍するために

① 育児・介護休業法のポイント

- ①男女労働者は育児のため、子が1歳6か月になるまで最長1年半休業を申し出ることができる。
- ②男女労働者が要介護状態にある家族（配偶者、父母及び子、配偶者の父母、及び厚生労働省令で定める者）1人につき介護のために通算93日間休業を申し出ることができる。
- ③事業主は育児・介護休業の申し出を拒むことができない。
- ④育児・介護休業を理由とする解雇その他不利益な取扱いは禁止。
- ⑤休業前に職場復帰後の賃金、配置を労働者に示すことは努力義務。
- ⑥1年以上の勤務実績などを条件に、アルバイトや契約社員などの有期従業員も休業を取得できる。

③ 待機児童をゼロに！横浜市の取り組み

待機児童とは、保育所がいっぱいで入りたいのに入れない子どものこと。横浜市は2010年に1552人と全国最多となり、対策に乗り出した。その結果、2013年には待機児童ゼロを達成した*。

横浜市の取り組みの特徴

- ・株式会社の参入を進め、保育所を拡充
- ・認可保育所の基準は満たさないが、市独自の基準を満たした施設を「横浜保育室」として認定し、助成
- ・保護者のニーズと保育サービスを適切に結び付ける相談員を区役所に配置 など



●株式会社が運営する認可保育所
鉄道の高架下につくられているため、柱が多い。

*「待機児童ゼロ」が注目されて申し込みや転入者が増加し、2014年は待機児童ゼロとならなかった。

② 男女の育児休業の取得率



(2013年度)

(雇用均等基本調査)



●育児休業中の男性 実際に育児休業をとった男性の多くは、育児を充実した時間と感じている。

解説 低い男性の育児休業取得率
男性の育児休業の取得率が低い理由は、職場で休業を取りにくい雰囲気があることや、収入面での不安があげられる。

④ 病児保育

NPO法人フローレンスでは、子どもが急に熱を出したときに、保護者に代わって預かる病児保育を行っている。小児科医と連携し、研修を受けた地域の子育てベテランママ（子どもレスキュー隊員）のスキルを活用。隊員、または利用会員の自宅で預かることで、共働き家庭を支援している。

●「子どもレスキュー隊員」



(ワークシート)

< 男女の役割ってなんだろう??? >

()年()組 ()番 名前()

ロールプレイで演じる人の気持ちを考えよう



ロールプレイをやってみての感想や自分の考え

家庭での男女の役割って???

先生より

沼津 小中学校（総合）

1 単元名 将来の職業について考えようⅡ（3／10）

2 本時の指導

（1）目標

職業当てクイズを通じて様々な職業に就いている人たちに興味を抱いた子どもたちが、ゲストティーチャーの方から仕事内容や経験談などを聴いたり、擬似体験したりする活動などを通して、色々な仕事や生き方があることに気づき、自分の将来の夢に前向きに取り組もうとする。

（2）指導過程

段階	学習活動	評価（○）	支援（☆）	留意点（・）
つかむ	1 3人のゲストティーチャーの職業当てクイズをする。			・子どもたちの自由な発言を大切にし、興味が湧くようにする。
	この3人の方の職業は何だろうか。 女性が就きそうな職業だから保育士さん？看護師さん？ 男性は、スポーツに関係する仕事かな？パソコンを扱う仕事かな？ どんな仕事なんだろう。想像がつかないなあ。 ①消防本部南消防署 消防士長 榊原麻美さん ②沼津市立病院看護部 看護師 宮崎智彦さん ③沼津警察署 警務課 秋山利昭さん えーっ、女性の消防士さんがいるの？ 男性の看護師さんは、見たことがあるよ。 警務課ってどんな仕事をするのかな？			・無意識に職業を男女に分けて考えている発言があったら敢えて取り上げる。
	ゲストティーチャーの方々の仕事について考えよう。			・ゲストティーチャーの話は、必要に応じてメモするように促す。
追	2 ゲストティーチャーの方々の話を聴き、ワークシートにメモする。			☆メモを取ることが苦手なS.Tさん、M.Gさんには、心に残ったところをメモするように声をかける。
	なぜ、この職業に就こうとしたのだろうか？ この職業についてよかったことは○○だそう 仕事に就くと、そんな苦労があるんだ。 この仕事には、こんな資格が必要なんだ。 今からこういう勉強をしておくといいんだ。 僕のなりたい職業には、どんな資格が必要かな。 女の人でも消防士になれるなんて知らなかった。 色々な職業について、もっと調べてみたい。 やりがいを感じられる仕事に就くっていいな			○ゲストティーチャーの方々の話を聴き、色々な仕事や生き方があることに気づくことができる。 【問題に気づく力】（ワークシート）
	3 ワークシートをまとめたり、ふりかえりをしたりする。			○ゲストティーチャーの方々の話を聴き、自分が将来就きたい職業について、より調べたいという思いを持つことができる。 【発展させる力】（ワークシート）
まとめ	職業に就くためには、いろいろな試験を受けたり資格をとったりすることが必要だということが分かった。いつも楽しいばかりではなく、苦しいこともあるけれど、やりがいを感じていることもわかった。僕は将来○○の仕事に就きたいと考えているが、どんな資格がいるのかをもっと調べたいと思った。			☆ワークシートになかなか書き出せない子は、教師と一緒に講話を振り返り、印象深かったことを書くように促す。

（3）評価規準

- ・ゲストティーチャーの方々の話を聴き、色々な仕事や生き方があることに気づいている。【問題に気づく力】（ワークシート）
- ・ゲストティーチャーの方々の話を聴き、自分が将来就きたいと考えている職業について、もっと調べたいという思いを持っている。【発展させる力】（ワークシート）

1 生徒の実態 3年1組 35名（男子18名 女子17名）

生徒たちは、男女の仲がよく休み時間などで分け隔てなく談笑する姿が見受けられ、男子や女子で固まって、嫌な雰囲気を出しているということは見受けられない。3年生となり、短学活などで担任から進路についての話をすることが多くなってきている。生徒たちにとって「進路」というと、どうしても目先の志望校の選択という考えになりやすく、休み時間の話も「一日体験入学先」や「志望校の学力」などといったことをよく耳にする。しかし、高校選択は「人生の通過点」でしかなく、むしろ自分の将来はもっと先にある「職業選択」から逆算して考えてほしいものである。もちろん、職業選択が将来のゴールというわけではないが、大きなウエイトを占めていることは間違いないだろう。

また、職業に関する子どもたちのとらえにも大きな課題がある。教育相談中にある生徒が、「子どもとかかわることが好きだから、それに近い仕事がしたいと考えている」と言うので、保育士等について話すと「保育士は女性の仕事っぽいので選びにくい」と答えた。こうしたことから、「職業の選択には子どもたちに性による先入観がある」という実態が見えてきた。自分の職業選択をするにあたり、自らの先入観が選択の幅を狭めてしまうのはあまりにもったいないことである。

そこで、進路学習という名のもと、職業に対する先入観を払拭したいと考えて授業を実践した。

2 題材観と題材構想

職業のいくつかには、「看護師」「保育士」など、1999年の男女雇用機会均等法の改正などから、正式な名称が変更になったものがある。社会的にはすでに浸透し、それまでの「看護婦」「保母」といった呼び方をするのは、あまり耳にしなくなった。しかしながら、その職業の男女イメージが払拭されているかというところではない。前述したように、法律が改正されてから生まれた生徒たちも、「保育士＝女性」というイメージをもっているのが事実である。

こうしたイメージは、職業に対する先入観や偏見が持たせるものであることは言うまでもないが、「先入観」や「偏見」とは持っている本人が、それと気づかないものであることがポイントである。自分がもっている「先入観」や「偏見」に気づくことで、いかに自分が先入観にとらわれているかを自覚することで、その職業の新たな一面が見えてくることもあるだろう。

そこで今回は、水平思考クイズを取り入れて、生徒自身で先入観を取り除ける授業を考えた。水平思考クイズとは、「ラテラルシンキング」と呼ばれる考え方のゲームである。出題者は回答者が「あれ？ つじつまがあわない。」と思うような出題をし、回答者からの質問に「YES」か「NO」で答えながら、真実にたどり着いていくような問題である。そして、自分たちが職業の男女イメージにどれだけとらわれているかを、職業をあげていくことで実感することを願いたい。

「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」と米デューク大学のキャシー・デビットソンが語った予測は、教育界にも大きな衝撃を与えている。どんな職業が生まれ、生徒たちがどのような職業に就くのかはわからない。しかし、新たな時代を生きる生徒たちが、偏見や先入観をもたないことは当然だが、次の世代にも偏見や先入観を与えない生き方をしてほしいと考えている。

3 授業実践報告

<教師の投げかけ　・〇生徒の反応>	備考
<水平思考クイズをやる> 父親とその息子がひき逃げ事故にあった。事件性が高いと判断した警察は、捜査を開始した。父親は助からなかったが、一命をとりとめた息子に、事情を聞いた刑事はこういった。 「あの子は私の息子だ」 いったいどういうことだろうか。 ・「あの子」とは息子のこと？ → YES ・父親は亡くなったのですか → YES ・本当に刑事の息子ですか → YES ・父親と刑事は同一人物ですか → NO ・息子の父親は二人いますか → NO ・刑事と父親と息子は家族ですか → YES ・刑事は女性ですか → YES ○そうか、刑事だからといって男性とは限らないな ○テレビでも女性刑事がいるものね ○刑事は男性のイメージが強い <職業で性別をイメージしてしまう職業をあげよう> [男性イメージの職業] ・タクシードライバー ・大工　・海上保安官 ・プロレスラー ・ボクサー　・自衛官　など [女性イメージの職業] ・保育士　・バスガイド ・養護教諭　・給食の調理員 ・ネイリスト ・キャビンアテンダント など [意見が分かれた職業] ・ピアニスト・・・ ♂辻井さんのイメージが強い ♂少し前にテレビで話題になった人が男性 ♀ピアノを弾ける人は女性が多い ♀男性のピアニストは覚悟が必要だと思う ・美容師・・・ ♂テレビではほとんどが男性 ♂近所の美容室は男性がやっている ♀床屋は男性、美容室は女性のイメージ <職業に対する先入観はなぜ生まれるのだろうか> ○経験や体験から決めつけてしまう ○テレビや漫画の影響が大きい ○仕事内容から、性をイメージしてしまう 　　力仕事＝男性　細かな仕事＝女性 ○親や身近な人の職業から、決めつけてしまう	*事前に水平思考クイズは、事前に一度やっておき、慣れておいた。 ・刑事が男性という先入観が間違いの第一歩だと子どもたち自身が気づいていった。 ・イメージがある職業に着目するのではなく、むしろそのようなイメージは特になという職業について取り上げ、話を膨らめていった。 ・「力士」が挙げたが、土俵には女性が上がれないことを伝えた。 ・「『女子○○』という言葉があることがおかしいね」と生徒がつぶやき、同じ班の生徒が頷いていた。

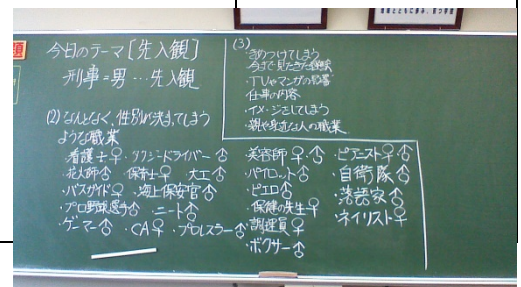
4 生徒の感想

- 常に男女ともに職業があると考えたい
- 職業を決めつけしないで、自分は自由に選びたい
- イメージにとらわれず、やりたい仕事に就ければいいと思う
- 身の回りのことだけで判断せず、もっと広い範囲で物事を見たい　など

5 授業を終えて

多くの生徒が、職業に対する先入観を持っていることに気づいていったようであった。授業の展開として、後半がもたついてしまった感じを受けたが、「ほかのことに左右されず、自分たちが職業を選ぶ際には、やりたいことを選ぶ」という記述があったときには、この授業を行った成果があったと思われる。

性別の特性があるのは、動物学上では当然だが、能力には差がない。自分自身の能力を生かし、自由な職業選択をしてほしいと願っている。



1. 主題設定の理由

本時は青島北中学校の授業案「これからの女と男」を島田第二中学校の実態に合わせて改変させていただいたものである。進路指導（４時間）の中の１時間として行う。中学２年生の３学期となり、卒業後の進路選択まで１年を切った現在、進路について関心も少しずつ高まってきている。将来を見据え、自分に適した進路選択をする上でも、職業についてもっと意識を高めていくことは大切だと考える。本時の授業を通して、職業を選択するとき性別で判断する偏った考え方に囚われるのではなく、自分の個性や適正に合った仕事を選ぶ考え方ができるようにしていきたい。

2. 本時のねらい

「女だから」「男だから」という意識をなくすことが、自他の可能性を広げ個性を伸ばすことにつながるのだと
言うことに気づく。

3. 過程

学習活動	形態	留意点
① 今日は「将来の仕事」について考えてみよう。	全体	・授業の内容に対して興味を抱かせたい。
② 先日職業についてのアンケートをとりました。男女別に集計したので、見てみよう。(アンケート結果を黒板に提示する)		・どちらの結果が男子か女子かは伏せておく。
・予想と違うぞ。 ・どっちが男子？		
③ さてどちらが男子でどちらが女子でしょうか		
・保育士がある方が女子だと思う。		
・漁師があるのは男子だと思う。		
④ どうしてそう思いましたか。		
・〇〇は女の人(男の人)に向いていない。		・普段、あまり意識しないことを考えてみる。
・〇〇は男の人(女の人)が多い。		・「こういう人」とは性別の意識を越えて職業を選択している人たち。
⑤ みんなの予想通りこちらが女子でこちらが男子です。でも最近こういう人が増えてきています。(写真を説明しながら提示)		例えば男性の家庭科教員など
⑥ こういう人たちが増えてくると、どんなプラス・マイナスがあるか、考えてみよう。		・自由に考えさせる。
〈班の話し合い。短冊状の紙にプラス・マイナスを分けて書く。→発表〉	班	① 自分にとってのプラス・マイナス
⑦ いいところに気がついたね。みんなの意見をまとめてみると・・・。		② 社会にとってのプラス・マイナスなど
・自分の好きなことや個性を生かせる。		・書けたらどんどん黒板に貼る。
・選択の幅が広がる。自分のあった職業に出会える可能性が高くなる。	全体	・性別にこだわらないことで選択の幅が広がることに気づかせる。
⑧ みんなのアンケートにも少数意見でこんな職業に関心があるという人がいました。→男子で保育士、看護師 女子で漁師、パイロット		・静かに書かせる。
⑨ 進路を考える時は「男だから、女だから」と初めから決めつけるのではなく自分にあってるのはどんな職業なのか広い視野で考えていきたいですね。	個人	
⑩ 授業の感想を書こう。		

1 実践のねらい

性別によって生き方が制限される不合理さに気づき、性にとらわれず、個性と本人の意志で進路選択をしていこうという態度を養う。

2 実践の概要

今年度、本校の研修の柱はキャリア教育である。教育活動全般で、進路指導を行うことが目標になっている。本実践は、男子生徒「信二」の職業体験先をめぐるジェンダー的問題を扱ったモラルジレンマ資料を使った道徳の授業である。

事前アンケートで、ジェンダーやキャリア教育の観点から「男しかできない仕事、女しかできない仕事はあると思うか」という問いに、2学級64人の生徒の内、58人の生徒が「ないと思う」を選択していた。「あると思う」と答えた生徒の理由は、「重労働は女には無理」「幼児の世話は女の方がふさわしい」というものだった。また、家庭での手伝いに性差があるかを問う「あなたや兄妹はどんなお手伝いをしているか」の回答では、4人の家庭で姉妹にのみ炊事や洗濯などの手伝いを課しているということが分かった。

3 道徳「トライやる・ウィーク」の授業を通しての実践

① 資料を読んで、信二の置かれている状況を考える。

ア 信二は何を悩んでいるのか。

※生徒の解答例（以下同じ）

・保育所に行くという希望を通すべきか、変えるべきか。

イ なぜ、信二は保育所に行きたいのか。

・将来、保育士さんになりたいという夢があるから。

・小さい子の面倒を見るのが好きだから。

ウ 希望を変えた方がいいと言っている人はどんな理由からか。

・信二が変えると他の女子が行けるから。

・女子ばかりだとからかわれるから。

・どちらかという小さい子の世話は女子の方が向いているから。

・保育所の方でも女子がいいと言っているから。

② 信二はどうすべきか自分の意見をもつ。

・希望を通すべき：56人

・希望を変えべき：8人

③ 信二はどうしたらよいかグループで話し合う。

ア 小さな子の世話は女子の方が適しているか。

・そう思う：女子のほうが慣れている。

・そう思わない：男子でも世話が上手な人がいる。

イ もし、信二が希望を通したらどんなことが考えられるか。

・女子に恨まれる。

・友達や先生のアドバイスを聞かない。

・将来の夢が膨らむ。

・保育士の体験ができる。

ウ もし、信二が希望を変えたらどんなことが考えられるか。

・後悔する。

・保育士の夢が断たれる。

・女子に喜ばれる。

・友達と楽しく体験ができる。

④ 信二はどうすべきか考えを書く。最終の判断・理由づけをする。

・希望を通すべき：59人（将来の夢をかなえるためにも保育所に行ったほうがよい。男だからとあきらめるのはよくない。自分の意思を通せる。）

・希望を変えべき：5人（先生や友達の顔が立つ。女子が喜ぶ。保育所の希望がかなう。保育所以外の職場体験ができる。）

4 実践のまとめ

今回の事前アンケートや授業実践から、生徒たちにこれまでのジェンダー教育の成果の表れを見ることができたと感じられた。ただ、明らかな性別による差別は少なくなり職業選択幅が広がっているとはいえ、依然として信二のような理不尽な体験もなくなっていないと思われる。そのために、さらに完全な男女共同参画社会の実現を目指して今回のようなささやかな授業を数多く行うことが必要だと考える。そういった実践授業を積み上げることが、ジェンダーの意味を再考する機会になり、望ましい人権意識を高める手立てになると考える。

5 資料

〈授業後の生徒の感想〉

- ・「女だからダメ」と差別されることがあると思っていたが、男子にも差別があることが意外だった。
- ・男だから、女だからと差別することはやっぱり変だと思った。性別で職業を決めることはできないと改めて感じた。
- ・自分の夢を通すのは大切なことだと思う。
- ・仕事は自分で、できることややりたいことを判断して決めるべきだ。
- ・グループで話し合っている時に、自分の将来について考えることができた。
- ・自分も今まで男女の差別をしていたことに気付いた。



読み物資料

信二の「トライやる・ウィーク」

信二は中学2年生で、もうすぐ楽しみにしていたトライやる・ウィーク（体験学習）が始まる。信二は以前から、保育所での活動を希望していた。小さい子が大好きで、将来は保育士になりたいという夢を持っていたからだ。

ところが保育所は希望が多く、第2希望に移らないといけない人も出てきた。親は「信二は小さいころから、面倒見が良かったからね。保育所は合っているかもしれないね。でも保育所を希望しているのは、女の子が多いでしょ。いい仕事だとは思うけど、女性の仕事だし、将来の職業として選ぶには給料が安いわよ。友達もいる他の所に変わったほうがいいんじゃない。」と言う。

先生は「職業を男性向き、女性向きと分けるのはいけないと思うが、小さい子の相手は女の子がどちらかというに向いているんじゃないかな。保育所の方も、できれば女の子に来てほしいと言われてるし、よく考えてみなさい。」と話した。

友達は、「おい、信二お前保育所に行くのか？ええな、女の子ばかりで。でも男が1人だと、力仕事とか何かの修理とかばかり頼まれるんじゃないかあ。僕らと一緒に行

こうよ。やっぱり男同士がいいよ。さっきも女子らが、信二が他に変わってくれたらいいのになって話していたぜ。」とからかいながら言ってきた。信二はだんだんイヤな気がしてきた。男女平等だとかいいながら、「男だから」という理由であきらめないといけないのか、信二は腹が立ってきた。

そういえば、近頃は女性の人の人権問題が良く話題になっている。信二は、「女だから・・・」

という理由でつらくイヤな思いをしてきた人の気持ちが少しわかったような気がした。

女子らと行き先を決める話し合いの日が近づいてきた。明日までなら希望を変えるのを待ってくれると先生は言っている。

信二は、希望を通すべきか、変えるべきか。

長谷川朱理、
道徳性発達研究会

1 題材名 あるお母さんのつぶやき

2 ねらい

色分けによる男女の固定的イメージに気付き、一人の人間として好きなものを選び、自分らしさを表現できるようにする。

3 学習過程

学習活動	留意点
1 本時の課題を確認する。 自分の好きな色について考えよう。 2 「雨の日の様子」に色を塗ってみよう。 ・男の子の傘は青、女の子の傘は赤にしよう。 ・1年生の時にもらった傘はみんな黄色だった。 ・ランドセルは黒と赤かな。 ・ピンクが好きだから、ピンクで塗ったよ。 3 「あるお母さんのつぶやき」を読みましょう。 ・私は女の子だけど青が好きだよ。 ・男の子でピンクは恥ずかしいな。 ・自分の好きな色を選べばいいんじゃないかな。 4 色を塗った「雨の日の様子」を見せ合いながら、色によって男女で分けられているものを身の回りから探してみましょう。 ・トイレの目印は赤と黒だね。 ・ランドセルはどうだろう。 ・この絵の具セットはピンクが多いな。 ・洋服はみんないろいろな色を着ているよ。 ・あまりないんじゃないかな。 5 色は男女で決まっているのか話し合しましょう。 ・男女で一つの色を選ぶとき、何色を選ぶかな？ ・男の子用、女の子用を色で分けると困ることはないかな？ ・逆に便利なことはないかな？ 「男の子の色、女の子の色」はない。一人一人好きな色が違っていい。 6 まとめましょう。	・ワークシートに色を塗り、理由も書くようにする。 ・塗った色を男女別に黒板に貼り、子どもたちの意識を高め、その後の展開に生かす。 ・自分が選ぶときの理由を考えながら感想を言い合うようにする。 ・昔のランドセルは赤と黒しかなかったことを知らせる。今はいろいろな色があることに気付かせたい。 ・男女に関係なくいろいろな色の好みがあることを知らせる。 ・友達の発表から考えたことをもとに、アンケートを書くようにする。

あるお母さんのつぶやき

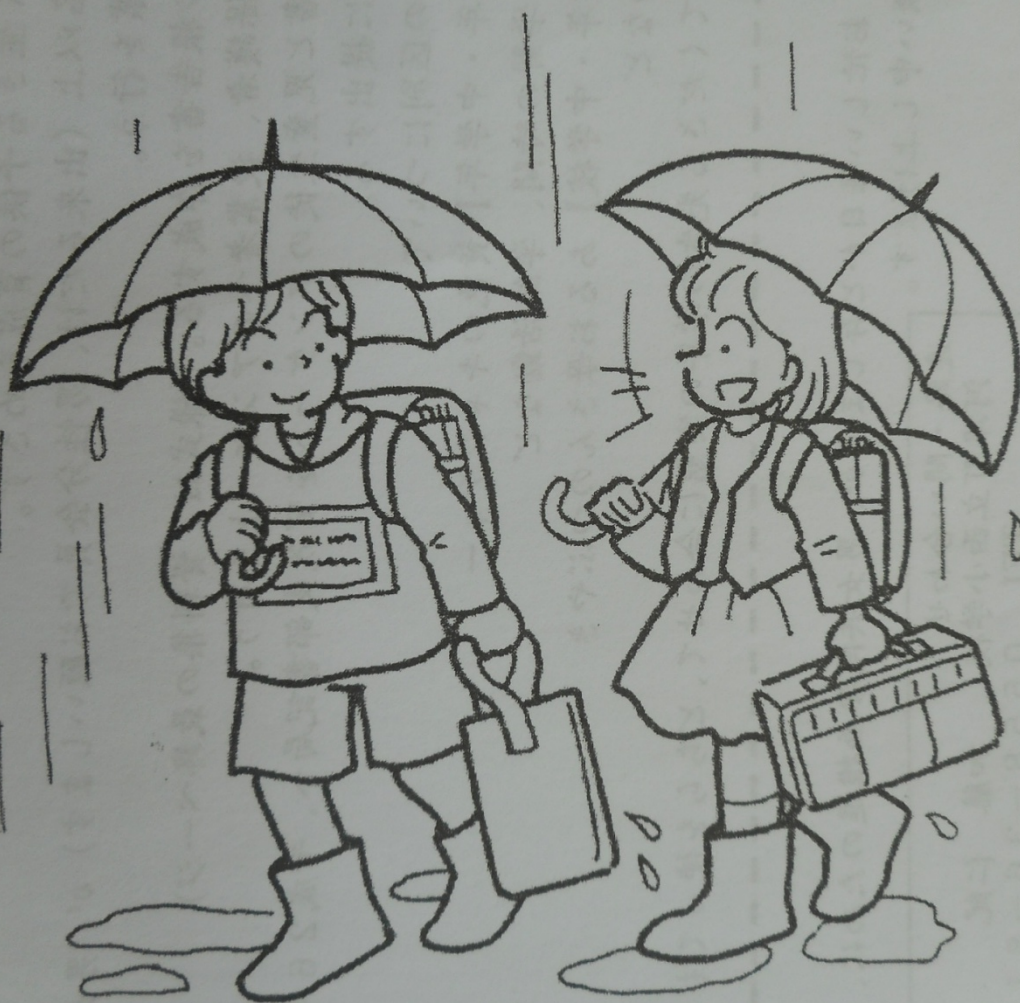
おなかの中の子が男の子だと分かってから、
母とベビー布団を買いに行きました。
私はピンクの布団が気に入ったので、
それがいいと言ったら、
「男なんだから青なんじゃない？」
と言われました。
「せめて黄色にしたら。」
とも言われました。

息子が座れるようになった頃のある日、
目の前に、赤いボールと青い自転車、
白のぬいぐるみを置いて、
「どれがいい？」と息子に聞くと、
彼は赤いボールを選びました。すると、
「さすがに男の子ね。将来は野球選手かな。」
と言われました。

娘が生まれたときにも、同じことをしてみました。
娘も同じように、赤いボールを選びました。
「え？ 女の子なのにぬいぐるみよりボールが好きなの？」
と言われ、隣にいた人からは、
「きっと女の子だから、赤が好きなんじゃない？」
と言われました。

高校生になった息子が、
携帯電話を買いたいと言いました。
ホームページで機種を確かめ、
彼が選んだ色は、パールピンクでした。
申し込みに行ったとき、
お店の人は本当にこれでいいのか
何度も確かめました。

色をぬってみましょう。



女の子の色と男の子の色って、決まっていると思いますか。

三島 小学校（道徳）

1 主題名 「自分らしさを発揮しよう」 内容項目 1－（5）

2 資料名 「空色のランドセル」

（出典 静岡県教職員組合三島支部男女共同参画推進小委員会）

3 ねらい

自分の特徴に気づき、よい所を伸ばす。

4 主題設定の理由

クラスの和が深まり、子どもたちは、明るくのびのびと活動できるようになった。しかし、今までは、男女分け隔てなく過ごしてきた子どもたちも、そろそろ、男女の違いを意識し始める発達段階の中で、同性同士の友達との活動に重きを置くようになってきた。体や心が成長するに伴って、これからますます違いを感じるようになるだろう子どもたちが、男だから…女だから…という視点で物事を考えることなく、それぞれが、自分らしさを発揮しながら、互いに協力して生活していこうという姿をめざしてほしいと願い本主題を設定した。

5 本時の指導

（1）本時のねらい

何気なく「男だから…女だから…」と思って生活していた子どもたちが、資料について友達と意見を伝え合ったり、自分の生活を振り返ったりする活動を通して「男だから… 女だから…」という考え方にとらわれず、自分らしさを発揮して生活していこうという意欲を深めることができる。

（2）授業構想

つかむ場面では、今日はどんなお話なのか興味を持てるように、色についての意識調査を行いたい。いろいろな色の色画用紙を用意して、男の子、女の子のどちらをイメージするか、また、その理由も発表させたい。

深める場面では、資料を読み深めていく。難解な語句もあるので、意味を説明しながら資料を読むようにする。また、場面を想起しやすいように場面絵も用意する。ワークシートに書くことで、自分の考えをしっかりと持ち、発表へつながるようにしたい。自分の生活を振り返る場面では、少人数での伝え合う活動を行う。なかなか書けない子どももあると思われるので、友達の経験を聞く中で、自分にも同じようなことがなかったか参考にさせたい。

まとめる場面では、先生が、家事や炊事、育児などのどのように関わって生活しているかについて話をする。資料のお話しと重ねて考えるようにしたい。また、振り返りの場面では、今日の授業の感想や、これからがんばりたいことを書くことで、実践への意欲につなげたい。

(3) 指導過程

	予想される子どもの活動 (◆) 支援 (○) 留意点 (・) 評価 (◎)
つかむ	この色でイメージするのは、男の子ですか。女の子ですか。 ・色に対する意識調査をすることで資料 ◆青…男の子だよ。なんとなくに興味を持たせる。 ◆赤…女の子だよ。似合うから。 ○発表の機会が少ないTくん、Aさんが発表できるよう促したい。 資料「空色のランドセル」を読み話し合う。 ・場面絵を用意し、内容をつかみやすいようにしたい。
深める	「お空の色のランドセル…」と答えたときの私の気持ちを考えましょう。 ◆おじいちゃん、おこるかな。 ・ワークシートを用意し自分の考えを ◆赤って言えばよかったかな。 書けるようにする。 ◆でも、わたしは、空色が好きなのに ○書くことが苦手なGくん、Tくんには、思ったことを自由に 書けばいいことを助言する。 おじいちゃんが「はなは、空色の…」と言ったときの私の気持ちを考えましょう。 ◆おじいちゃんが、私の気持ちを分かってくれた。 ◆女の子でも、空色がほしいと思っていいんだ。 ◆おじいちゃんにわかってもらえてうれしいな。 ◆わたしの気持ちを分かかってもらえてうれしいな。 自分らしいかさになるように色をぬってみましょう。 ◆自分らしい色を選択しかさに色をぬる。理由を書き、友達と伝え合う。 伝え合う場
まとめる	先生のお話を聞きましょう。 ◆教師の説話を聞く。 ◆ワークシートに振り返り（今日の授業の感想・これからがんばりたいこと）を書く。 ◎「男だから …女だから…」という考え方にとらわれず、自分らしさを 発揮して生活していこうという意欲を深めることができたか。

空色のランドセル

「好きな色のおり紙を持って行ってください。」

と先生がおっしゃいました。今日の五時間目は、六年生を送る会のためのかざりを作るのです。

おり紙をとろうとしたときに、けいじ君が、わたしに声をかけてきました。

「青いおり紙をとるの？男の子の色じゃないか。」

わたしは、

「男の色、女の色なんてないのよ。好きな色でいいと先生もいってたじゃない。」

と言いました。けいじ君は、

「あつ。そう。」

ととくには気にしていないみたいでした。

そのときに、わたしは、一年生になる前の、ある日のことを思い出しました。

わたしが、幼稚園の年長組の十一月のことです。

「そろそろ、一年生のじゅんぴをしなくちゃね。」

と母が言いました。するとおじいちゃんが、

「そうだ。おじいちゃんがランドセルをプレゼントしよう。真っ赤なランドセルをしよう。はなのすがたを見るのが楽しみじゃ。」

と言いました。

「あら、おじいちゃん。今は、赤いランドセル黒いランドセルなんて決まってるのよ。」

と母が言いました。

「そんなことはない。男の子は黒いランドセル、女の子は、赤いランドセルと昔っから決まってる。」

おじいちゃんは、ちよつとおこつたように言いました。

こまった顔をしているわたしを見て、お父さんが、

「はなは、何色のランドセルがいいんだい？」

ときいてきました。わたしは小さな声で、

「お空の色のランドセル。」

と言いました。こまったように答えたわたしに、おじいちゃんが、

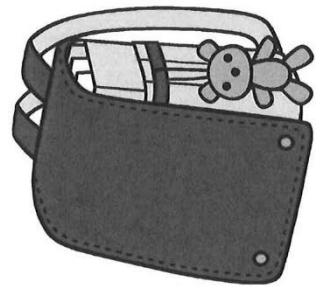
「どうして、空色のランドセルなんじゃ？」

とききました。今度は、大きな声で、答えました。

「はなは、お花畑が大好きなの。お花畑の上には、きれいな青空があうでしょ。」

おじいちゃんは、少しがっかりしたみたいで、わたしは

（なんだかわるいことを言ってしまったかな。）



と思いました。

次の日、わたしは、おじいちゃんとランドセルを買いに出かけました。お店には、わたしぐらいの子どもがたくさん来ていました。みんな、この色がいい、あの色がいいと楽しそうです。

「本当じゃ。いろいろな色のランドセルがあるのじゃな。」

おじいちゃんは、少しビックリしたようでした。そして、にこつとしてわたしに言いました。

「はなは、空色がいいんじゃないかな。」

わたしは、うれしくなって、

「うん。」

とこたえました。

夕はんの時に、父が心配そうにおじいちゃんにたずねました。

「どうでしたか。おじいちゃん？」

おじいちゃんは、

「それが、びっくりじゃ。今は、いろいろな色のランドセルがあるのじゃな。みんな楽しそうにえらんでおったわい。男の色、女の色ってだれが考えたんじゃないかな。」

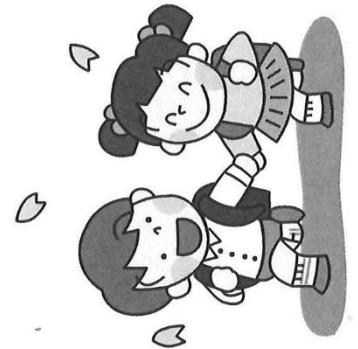
ちよつとてれくさそうにおじいちゃんは言いました。父も母も私もおじいちゃんもおばあちゃんもみんなでわらいました。

「はな。おじいちゃんにちゃんとおれいを言ったのかい？」

とお父さんに言われて、わたしは、答えました。

「うん。でも、もう一度言う。おじいちゃん空色のランドセルをありがとう。大切にするね。」

おじいちゃんは、うれしそうににっこりしました。



- 1、 「お空の色のランドセル…。」と答えたときのわたしの気持ちを考えましょう。
- 2、 おじいちゃんが「はなは、空色のランドセルがいいんじゃないかな。」といったときわたしはどんな気持ちだったでしょう。
- 3、 もう一度おじいちゃんにおれいを言ったときのわたしの気持ちを考えましょう。
- 4、 色以外に、男の子の：女の子の：と決めてしまっていたことはありませんか？

小笠 小学校（学活・道德）

- 1 題材名（教科名） 男の子の色、女の子の色ってあるのかな
- 2 ねらい 男の子の色、女の子の色に分けて、その理由を話し合うことを通して、男女の色に決まりはなく、自分は自分でよいこと、自分らしさを大切にするという気持ちをもつことができる。

3 學習過程

学習活動	支援・留意点
○どんな色がありますか？どの色が好きですか？ 水色、ピンク、黄色、オレンジ、黒、青、緑 男の子の色、女の子の色ってあるのかな。	・自由に発言させ、学習の課題に迫る。
○色を分けてみよう。 ・女の子のランドセルは赤色だから、赤は女の子の色だと思う。 ・ピンクや赤は、明るい色だから女の人の色だ。 ・男のトイレのマークは青色だな。	・多くの子の意見交流ができるように、グループ交流 → 全体交流の形をとる。
○男の子の色、女の子の色って決まっているのかな。 ・赤はやる気の出る色だから、男女どちらも関係ないと思う。 ・どっちがどっちって決めにくいな。決められない。 ・男の色、女の色は決まっていない。自分の好みの色で使っていいい。 ・男の色、女の色と決めつけてはいけない。	・話し合いの型で意見を言いやすくする。 ・男女の色分けして板書することで、「自分はこう思うのに」「分けられない」という思いをもたせる。
○感想を書こう。 ・男女の色に決まりはない。 ・男女の色は関係ない。みんな違う色が好き。 ・どんな色が好きだろうとその人の自由。そのひとそれぞれの色を大切にしたい。	・一人一人思うことは違う。それぞれのよさを知ることが、自分や友達を大切にすることにつながることを伝える。

- 4 児童の反応や感想
- ・自分が好きな色だから、好きな色はそのままでもいい。だれが、どの色でもいい。
 - ・これは男の色、これは女の色という決まりはない。それぞれ自分の好きな色がある。
 - ・色は、男女決めなくても人それぞれ違うから、決める必要はない。
- 5 教師や参観者の感想
- ・「黒はかっこいいから男だと思う」「ピンクはやさしくて明るい色だから女の色だ」など、無意識のうちに自分のなかで色分けしていることに気づかされた。しかし、それぞれの考えを話し合うことを通して、「どちらもどちらだ」「わけられない」「自分が好きならそれでいい」という思いが全体に広まった。その人らしさ、自分らしさを大切にするとよいという子どもの意見を受け、それぞれのよさを認め合える雰囲気を作り続けたい。

1 学 級 6年1組（男子20名 女子7名 計27名）

2 議題名 男女の仲をALL MAXにしよう！
活動内容（1）学級や学校の生活づくり
～学級や学校における生活上の諸問題の解決～

3 児童の実態と議題選定の理由

4月に学級会のオリエンテーションを行い、これまでに3回の学級会（6年1組真心一家相談会）を経験してきた。まずは「意見を出し合う」→「比べる」→「きめる」という基本の流れをつかむことができた。また、「全員参加の話し合い」をめあてにしていたので、一人1回以上発言することもできた。一方、時間内に決定することや賛成や反対の理由を伝え合いながら、折り合いをつけて集団決定をすることの難しさを感じるなど、課題もはっきりしてきた。

今回、議題ボックスには、「各学年にアンケートをとって全校遊びをしたい」「陰口やいじめのないクラスにしたい」「男女の仲をもっとよくしたい」というカードが入れられていた。計画委員会で話し合ったところ、「全校遊びは6年生としてぜひやりたいけど、たてわりリーダーに任せよう。」ということになった。また、「クラス遊びや朝の会の交流タイムなどで、6年生全員で仲良く遊んだり、かかわったりできるようになったし、けんかも少なくなったけど、男子は男子、女子は女子という感じもする。」「いじめや陰口はないけど、女子をからかったり、ちょっかいをかけたりする人もいる。」という意見が出た。そこで、帰りの会で聞いたところ全員が納得し、第4回真心一家相談会で「男女の仲をALL MAXにしよう！」について話し合うことになった。「ALL MAX」とは本学級の目標であり、「全員が全力を出し切る」「思いやりを全開にし、全員が幸せな学級にする」という思いが込められている。「富戸小学校の友達は一生の仲間だから、卒業までにより仲を深めたい。」と考えている子どもたちに合った議題である。また、全員が必要を感じていることから、本気で話し合うことのすばらしさや大切さを実感できる議題でもある。本気で話し合う中で何とかして相手に伝えたいという思いが生まれ、伝達の道具としてのことばの力が育つ。また、折り合いをつける中で、相手の立場を考えることによって、思考の道具としてのことばの力も育つと考える。「全員が仲良くなること」と「全力で話し合うこと」の両面から、学級目標の「ALL MAX」に近づけると考え、第4回真心一家相談会の議題に選定した。

4 事前の活動

事前の活動で計画委員は、男女の仲をALL MAXにするために決めるべきことを出し合い、その中で、みんなで話し合うことを小柱とする。「男女の仲をALL MAXにする方法」について話し合うべきだと考えている子供たちに、男女の区別なくかわることが難しい理由をインタビューする方法もあることをアドバイスする。いろいろな理由があること、恥ずかしいと考えている友達が多いという結果から「恥ずかしさをなくすにはどんな工夫をすればよいか」「男女の仲をALL MAXにするためのルールを考えよう」という小柱を設定するだろう。話し合いのめあてを考えるときは、教師から「第3回で時間内に話し合えなかった理由を考えてめあてを決めよう」と投げかける。子どもたちは、反対意見が出たときになかなか解決できないことが原因だと考え、解決案を出すことを話し合いのめあてにするだろう。学級会直前の計画委員会では、事前にみんなの意見を集約し、話し合いの流れを予想する。まずは意見の絞り方を考えるようにアドバイスする。子どもたちは、今回は一つに絞る必要はないことに気づき、みんなが納得した意見を決定していけばよいと考える。意見を出し合い、決定する際には、反対の立場や少数の意見も聞くことが大切だということを確認しておく。

5 本時の活動

（1）本時のねらい

恥ずかしさをなくす工夫や仲良くするためのルールについて積極的に意見を出し合う中で、友達の考えや気持ちをよく理解し、認め合いながら内容を決定することを通して、互いに協力して男女の仲をALL MAXにしたいという気持ちを高める。

(2) 活動計画

予想される子どもの表れと教師のはたらきかけ・支援・評価等		
1 はじめの言葉		
2 歌「友達になるために」(音楽係)		
3 役割紹介		
4 議題の確認「男女の仲をALL MAXにしよう！」		
5 提案理由の説明 仲良くクラス遊びができていますし、朝のあいさつも男女でハイタッチをしてできています。しかし、普段は男子は男子、女子は女子という感じがあります。小学校最後の年を最高の思い出にするためには男女の仲をもっとよくする必要があると思い、提案しました。(提案者 5 班代表)		※議長団はめあてを発表し、意識を高めることで、よりよい話し合い活動につなげる。
6 決まっていることの確認 話し合って決めたことは絶対に守る。		※提案理由の説明や決まっていることの確認で、本議題の必要性を強くアピールできるように掲示物を作り、より伝わりやすくする。
7 話し合いのめあて確認 意見の言い合いになり、話し合いが進まなくなった時に、解決案を出せるようにがんばりましょう。		※休み時間に意見を黒板に書いておき、話し合う時間を十分に確保できるようにする。
8 話し合い 小柱1「恥ずかしさをなくすにはどんな工夫をすればよいか」		※発言することが苦手なAさんには、話し合いカードにコメントを入れ、意欲を高める。
男女でかかわる機会を増やす		安心してかかわれるようにする
・モーニングタイムで、男女でかかわるように意識すれば慣れると思う。 ・クラス遊びで、かわりが増えるような遊びをすればよい。 ・コミュニケーション係に新しい活動を考えてほしい。		・絶対に冷やかさないようにすれば安心できる。 ・嫌だなと思った時に、3 秒ルールで言い直してもらう。
※話し合いが平行線になった場合は、解決案を考えるための時間をとるよう司会に助言する。		※意見を全部書こうとしている場合は、要約して書くことを黒板書記と確認する。
小柱2「男女の仲をALL MAXにするためのルールを考えよう」 ・絶対に冷やかさない。 ・相手の嫌がることをしない。 ・モーニングタイムでは男女関係なく自分から声をかける。		※決まったことの確認では、付け足された意見も言うことを事前に確認しておく。
※賛成多数で簡単に決定しそうなときは、決まっていることを思い出し、絶対に守れるかどうか考えるよう助言する。		
9 決まったことの確認 ノート書記が話し合いで決まったことを発表する。		
10 ふり返り	※先生の話では、議長団へのねぎらい、解決案を出した子や話し合いを進める発言をした子の称揚を中心に話す。学級全体に広めたい表れを紹介することで、次回以降の学級会に生かせるようにする。	
11 先生の話		
12 終わりの言葉		
友達の考えや気持ちをよく理解して話し合い、男女の仲をALL MAXにしたいという気持ちが高まったか、話し合いの様子やふり返りカードで評価する。		

6 事後の活動

今回決まったことはコミュニケーション係が責任をもって実行していくことを確認する。コミュニケーション係は、1週間以内に新しい活動内容を考え、帰りの会で発表する。また、振り返りが大切であることを教え、コミュニケーション係がその方法を考える。定期的に振り返ることで、全員が意識を高め、男女の仲がALL MAXに近づくと考え。進捗状況によっては、1学期の終わりに予定されている集会活動でも男女の仲を意識し、改善のきっかけとしたい。

駿東 小学校（学活）

- 1 題材名 男女なかよく
- 2 題材設定の理由

3年生になり、男女の違いから日常生活の中で小さいさかいが繰り広げられるようになってきた。性差による体と心の違いがあることを理解し、男女の違いだけでなく、人として好みや興味関心に違いがあることを認め、協力して生活できるようになるために本主題を設定した。

- 3 指導構想

明るく素直な子どもたちである。休み時間に一緒に鬼ごっこなどをして仲良く過ごす子どもたちがいる一方で、ルールに対する思いや力などの差からトラブルが起り、喧嘩に発展することもある。また、ふざけてしまったり、やるべきことをやらなかったりする男子に対し、面倒見の良い女子が多いため、男子に対して要らぬおせっかいをして、男子を怒らせることもしばしばある。下校後も男女問わずたくさんの友達を家に呼んで遊ぶ男子もいる。しかし、そんな子に、「女の子と遊ぶのは変だよ。」と心ない言葉を言う子もいる。遊ぶことを素直に楽しんでた本人は非常にがっかりしていた。このように、子どもたちは、体と心の発達の途中で、男女関係なく楽しく遊びたいと考えている。反面、性差による体と心の違いを少しずつ感じてきているこの時期に、素直に人間としての尊重し合う気持ちを高めることのできるこの題材を扱うことで、協力してよりよい生活をしていくことを願う。

「いのちの学習」においては、この「男女なかよく」という題材は、1年時での「男の子と女の子のちがいで、男女の体の違いを理解すること、自分や相手を大切にすることの学習を踏まえ、位置づけられている。この題材を通して、男女という性差にこだわらず、さらに人としての興味関心に違いがあることを認め、誰もがお互いの理解と協力を図りながら協力して生活できるようになることを目指している。さらに、4年時の「自分もまわりも大切に」という題材において、男女の特性を理解し、お互いのよさを認め、尊敬し合える好ましい人間関係を作ること、大人の体に近づきつつある今の自分を見つめ、成長の男女差や個人差について理解を深めながら思春期に起こる心身の変化を肯定的にとらえることへとつながっていく大切な題材となる。

また、道徳の「2主として他の人とのかわりに関すること」の「(2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。」「(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」「4主として集団や社会とのかわりに関すること」の「(4) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。」につながっていく。

- 4 研修テーマとのかかわり

つかむ段階では、主発問に対する子どもの「考えたい。」という意欲を高めるために、日ごろの自分たちの問題点に目を向けさせるため、「みんなで生活していく中で、男女のちがいで困ったことやけんかはありましたか。」という発問を設定する。

深める段階では、「3年2組のみんながもっと仲良くするには、どうしたらいいだろう。」という主発問をすることで、相手を思いやる、自分の行動を見つめ直す、互いに認め合うことなどの意見が出ることで、思考のずれが生まれ、子どもたちの高まりにつながると考える。

まとめる段階では、次の学びに生かせるかどうか確認する発問として、「男女が仲良くするために、自分がやろうと思うことは何ですか。」という発問をすることで、互いを認め合い、仲良く助け合っていこうとしているかを確認する。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

発達段階において心と体に性差を感じ始めている子どもが、男の子と女の子の違いを考え、みんながもっと仲良くする方法を考えることによって、男女問わず人にはそれぞれ好みや遊びにも違いがあることを理解し、互いの違いを認め、仲良く助け合っていこうとする気持ちを持つことができる。

(2) 指導過程

段階	形態	子どもの学びやあらわれ（・）	教師の働きかけ（発問○ 支援◇ 留意点※）	評価等
つかむ	一斉	○みんなで生活していく中で、男女のちがいで困ったことやけんかはありませんか。 ・女子は、すぐ文句を言う。 ・女子はすぐ泣く。 ・女子はおせっかい。 ・女子は、すぐ先生やお母さんに言いつける。 ・遊びたい遊びがちがう。 ・男子は、意地悪で乱暴。 ・男子は、力が強い。 ・男子は、ふざけたりルールを守らなかったりする。	◇A, S, J, Kは、男女の外性器に敏感に反応するので、内臓に着目しやすいと思われるため、内臓に目がいくように意図的に声をかける。	
ふかめる	グループ	○男の子・女の子にちがいはあるのだろうか。 ・からだの中は同じ。 ・一つだけちがうところがある。 ・男子も女子もほとんど同じ。 ※体の地図（※別添写真）を見せ、男女の体はほとんど同じことに気づくようにする。		
	グループ	○3年2組のみんながもっと仲良くするには、どうしたらいいだろう。		
	グループ	・やさしくする。 ・助けてあげる。 ・相手がやりたいことを聞いてあげる。 ・思いやりを持つ。 ・気持ちを考える。	・わがママを言わない。 ・おせっかいをしない。 ・威張らない。 ・自慢しない。 ・言いつけをしない。 ・意地悪をしない。	・相手のいいところを認める。 ・相手の得意なことにも挑戦してみる。
まとめる	個別	※つかむ段階で出てきた問題について、グループで解決策を考える。また、良い点についても目を向けられるようにする。 ○男女が仲良くするために、自分がやろうと思うことは何ですか。 ・相手の気持ちを考える。 ・男のくせにとか、女のくせにとか言わない。 ・みんなが楽しく遊べることを考える。 ・ふざけない。 ・威張らない。 ・困っていたら、助けてあげる。		評価 男女問わず人にはそれぞれ好みや遊びにも違いがあることを理解し、互いの違いを認め、助け合っていこうとする気持ちを持つ。（ワークシート・発言）
		※ワークシートに記入する。		